

Ⅲ—1 魅力ある景観づくり推進事業(景観伐採事業)

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

7市(別府市、中津市、佐伯市、竹田市、豊後高田市、宇佐市、国東市)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あり、視点場の整備がなされてきたところであるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

(2) 目的

展望所の視点場において、眺望を阻害している樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

(3) 事業内容

視点場からの眺望を阻害している樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	湯けむり展望台(別府市)、京岩の景(中津市)等 7市12箇所	1/2以内

3 成果

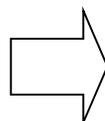
- ・展望所や観光ルート沿線の眺望が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や遊歩道の整備が行われる等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合、協力を得られないケースがある。景観の再生につながった事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真

〈打上橋・打上水路橋(宇佐市)〉



Ⅲ－２ 森林づくりボランティア活動促進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、令和3年度の参加者数は前年度と同水準を推移した。(令和3年度参加者数：12,239人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

(2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

(3) 事業内容

①森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

ア 森林ボランティア情報の発信



【センターHP】



【ボランティアセンター通信】

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和3年度は66回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



森林づくり活動実績に応じて、令和3年度はタオル・鎌・鋸などの支援物32点を16名に交付した。



【支援物品】



【森林づくりボランティア通い帳】

ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育講座（チェーンソー）」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」によって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	5人	伐木作業の基礎知識、実習等
刈払機	1日×2回	1人	刈払機の基礎知識、実習等

【研修の様子】



〈実習〉



〈学科講習〉

エ 新型コロナウイルス感染症対策について

公益社団法人国土緑化推進機構の作成したガイドラインに基づき、森林ボランティア活動時の感染予防対策（参加者の連絡先を把握、体温測定等）とともに、コロナ対策を行った上で安全に活動できるよう、周知を行った。

また、森林づくりボランティア支援センター通信等で情報発信を行い、予防対策の周知をはかった。

【ボランティア通信の記載例】

文月

気温が高くなるこれからの季節は、マスクをすることで熱中症にかかりやすい面もあります。森林内での活動（森林ボランティア、自然観察会等）でも下記に注意して、事故無く楽しく活動ができるようにしていきましょう。

- 1) 事前に体温の測定と記録
- 2) マスクの着用・消毒液の携行
- 3) 参加者同士の距離（2m以上）を確保（詳細は「国土緑化推進機構 ガイドライン」でご確認ください。

熱中症予防 × コロナ予防で「新しい生活様式」を健康に!

マスク着用により、熱中症のリスクが高まります。必要に応じてマスクを外して、「熱中症予防」と「コロナ感染防止」を両立させましょう!

マスクをはずしてもいいとき

- 1) 屋外で
- 2) 人との距離が2m以上（十分な距離）離れている時

マスク着用時の熱中症予防行動のポイント

- 1) 窓しい運動は避けましょう
- 2) 喉が潤いていなくても、こまめに水分補給をしましょう
 - ・1日あたり1.2リットルを目安に、大量に汗をかいたときは塩分も補給してください。
- 3) 気温・湿度が高いときは要注意

活動時に注意すること

- ・森林ボランティア活動で昼食をとるときは離れて取りましょう
- ・道具、食器の共有はやめましょう → 手洗い、うがい、消毒も忘れず!
- ・発熱や、検温異常があるときは森林ボランティア活動はやめましょう!

【令和3年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた
1) ボランティア情報の収集・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・HPによる森林ボランティア情報発信（66回更新） ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
2) 森林ボランティアの登録 個人（新規21名）
3) ボランティア通い帳の発行（21冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 相談対応：9件、野外におけるコロナ対策情報の発信等
5) 森林づくり活動支援（機材貸出：10回、人材斡旋：10回・41人）
6) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用団体：12団体 ・年間利用者数：786人

②森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。



草刈作業（豊後大野市）



森林教室（中津市）

令和3年度 森林づくり提案事業 実績一覧表

(単位：円、人)

整理番号	流域名	活動団体名	活動場所(市町村)	活動内容	交付額	活動参加者数
1	東部	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	194,050	106
2		護町会	杵築市	竹林整備	482,395	55
3	中部	三角台を守る会	臼杵市	下刈り、植樹	58,298	121
4		松ぼっくりの会	大分市	自然観察会、下刈り	57,400	52
5		もみの木に登ろう会	臼杵市	椎茸コマ打ち体験、下刈り	0	事業中止
6	豊肥	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	149,000	122
7		特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	135,000	53
8	西部	200海里的 森づくり実行委員会	日田市	下草刈り・植樹	65,750	58
9		特定非営利活動法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	下刈作業・補植、樹木名票設置	50,400	152
10	北部	三郷小学校みどりの少年団	中津市	①森林づくり活動 ②干潟の自然観察 ③源流の自然観察	91,260	42
	合計				1,283,553	761

③森林山村多面的機能発揮対策事業

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する(実施団体：9団体)

令和3年度市町村別活動団体数

大分市	3団体
由布市	2団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体
中津市	1団体

④企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和3年度までの協定締結企業は33社となっており、2社が協定を締結した。

〈令和3年度 協定〉

- ・日本フォレスト株式会社
- ・株式会社九州コクボ



植樹の様子

3 成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では15団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12、879人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%

4 今後の課題と取り組み

新型コロナウイルスの影響で活動を縮小・休止する団体もあったが、感染予防のガイドライン等を周知し、森林ボランティア参加者数の維持につとめた(目標の13,000人を概ね達成)。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

Ⅲ－３ 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

1 森林林業教育促進事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績

回	月日	内容	講師名	参加者数(名)
1	8月9日	「SDG s 推進のエンジンはESD」 ～森林ESDの可能性～	立教大学名誉教授 阿部 治 氏	29
2	8月28日	木材のすすめ ～環境にやさしい木質材料～	大分県林業研究部 城井 秀幸氏	26
3	9月4日	大分の森林・林業の現状と課題	大分県林務管理課 小関 崇氏	27
4	11月27日	学校カリキュラムにおける「森林・林業」 の取扱いと学習指導要領について	大分県義務教育課 後藤 竜太氏	28
5	12月10日	～講義・視察～しいたけ生産の現状	きのこチーム 甲斐 薫氏	21
		～現地視察～循環型林業の最前線	佐伯広域森林組合	
6	2月26日	森林・林業教育演習及び情報共有	森林インストラクター協会 理事 岩谷 美苗氏	26

○体験フィールドの選定

- ・場 所 高尾山自然公園内
- ・対象者 小学生
- ・テーマ 季節ごとに森の中でや樹木などの自然体験し、楽しさ、不思議さを感じる

○森林・林業教育プログラムの実施

- ・森林・林業教育モデル校 玖珠町立小田小学校における森林・林業教室

(SDGsと森林、間伐、伐った木はどうか、校庭の木と友達になろう、森で遊ぼう、いろんな木)

- ・白杵市立川登小学校みどりの少年団における森林・林業教育
(森の手入れをしよう(枝落とし・除伐))

④ 実施状況写真

・研修会開催の様子



【研修会開催状況】



【現地実習】

・プログラム実施の様子



【この木何の木?】



【枝落とし・除伐方法教室】

(3) 成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者30名を育成することができた。
- ・モデル校やみどりの少年において森林・林業教育プログラムを実施し、森林や林業への興味・関心を高める取組を検討できた。

(4) 今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、今後も学校教育における森林・林業教育の位置づけを理解し、森林・林業教育を実施できる指導者の育成を行う。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

2 森林林業教材作成事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

(2) 実施事業の概要

① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらおう環境を整備した。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

(3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

(4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

3 森の先生派遣事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

(2) 実施事業の概要

① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 1	R 2	R 3
派遣回数	85回	81回	78回
派遣人数	492人	397人	410人
森林体験者数	4,565人	3,217人	2,926人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 1	R 2	R 3
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	27人	37人	46人

④ 実施状況写真

・森林体験学習の様子



【自然観察会】



【別府大学での研修会】

・研修会の様子



【ネイチャア・フィーリング】



【森の先生ノウハウ共有会】

(3) 成果

- ・ 保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を78回派遣し、2,926人が森林体験活動を体験した。
- ・ 令和3年度は森の先生を対象に研修会を行い、お互いのノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

(4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、将来的には学校関係者にも参加してもらい、知識を共有する。

4 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体 市町村、大分県

(2) 実施事業の概要

① 目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

② 事業内容

- I 樹木医の診断に基づく樹木の治療
 - ・ 不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
 - ・ 踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など
- II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

③ R3実績

- ・ 治療 2件（大分市：鷹松神社の森のモチノキ、宇佐市：クロマツ）
- ・ 樹木医診断 1件（豊後大野市：健男社の森内のスギ）
- ・ 標柱・標識の設置 3箇所（別府市1件、豊後大野市2件）

(4) 活動状況写真

①モチノキ（大分市）の治療

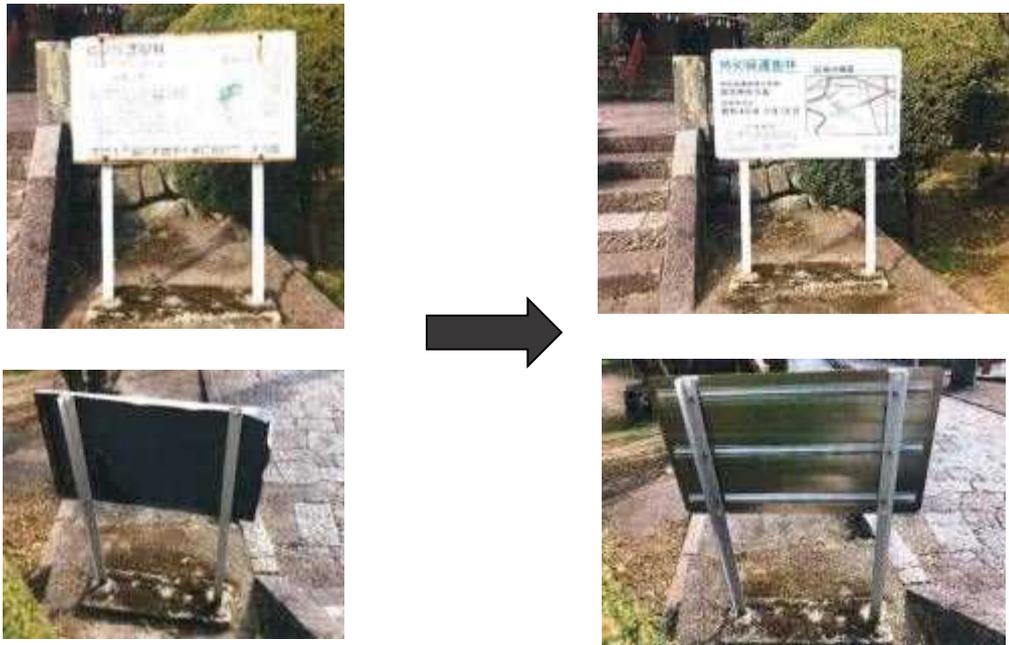


・着工前

・治療（整枝作業等）

・作業後

②朝見神社の森（別府市）の標識立替



・表面の字が薄れて読めない状態

・立替後

③樹木医による診断の様子（豊後大野市：健男社の森）



・診断に基づき診断書を作成

(3) 今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



5 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

(1) 実施主体

大分県、大分県みどりの少年団育成連絡協議会

(2) 実施事業の概要

① 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

② 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

③ 事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施する。

「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施する。

【参加者】県下少年団から95名

【行程等】令和3年7月29日 ※本来は1泊2日。コロナのため日帰り開催

○「つどい」の様子



【活動発表】



【森林での体験学習】



【記念撮影】

「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

【参加者】 県下少年団から35名程度

【行程等】 令和3年8月9日～11日（2泊3日）※コロナにより中止

○参考 実施状況写真（令和元年度）



【屋久島環境文化村センター】



【志戸子ガジュマル園】

（3）成果

- ・少年団の地域活動への支援を行い、活性化をはかった。
- ・「つどい」での活動発表によって、他の少年団との交流を行った。自然の中での体験学習も実施し、森林への理解・関心を深めた。
- ・新型コロナウイルスの影響で、リーダー育成研修は中止となった。

（4）今後の課題と取組

リーダー育成研修に関しては、感染症予防対策の方法等を見直し、コロナ禍での実施に向けて検討する。また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。

Ⅲ－４ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

香々地青少年の家 九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習の機会が不足している。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化にともない、新たな指導者の養成が急務である。

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

(3) 事業内容

- ① 幼児期からの環境学習に関する学習機会及び体験活動機会の提供
- ② 森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③ 「森で遊ぼう」自然環境での運動（遊び）推進

3 成果

緑の子ども園・緑の楽校 事業満足度

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	85%	90%	90%	90%	99%
実績	100%	100%	100%	99%	100%

森林の環境学習サポート隊 事業参加者

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	200名	700名	800名	800名	800名
実績	512名	1,092名	1,241名	348名	394名

「森で遊ぼう」生き生き自然体験キャンプ 事業参加者

年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	—	—	—	—	48名
実績	—	—	—	—	27名

4 今後の課題と取組

- ・次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。
- ・子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。
- ・子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



【緑の子ども園】



【緑の楽校】



【森林の環境学習サポート隊】



【生き生き自然体験キャンプ】

Ⅲ－５ 未来の環境を守る人づくり事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、青少年団体等で環境学習に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちに環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育成し、環境関連の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

①おおいたこども探険団推進事業

年度	H30	R1	R2	R3
採択団体数	15	12	8	9
受講者数（人）	約2,600	約2,000	約600	約2,000

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	H 3 0	R 1	R 2	R 3
派遣実績（人）	1 5 3	1 6 5	9 6	1 1 4
受講者数（人）	8, 7 5 0	8, 6 9 6	3, 4 8 6	5, 8 2 2

4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んで行く。

5 実施状況写真



① おおいたこども探検団事業
NPO 法人アイラブグリーン大分
(自然体験活動)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業
(森林学習講座)

Ⅲ－６ 全国育樹祭開催準備事業

(みどりの少年団活性化推進事業)

【全国育樹祭推進室】

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・みどりの少年団の資金不足により活動が停滞している。
- ・専属の指導者が不足する等、みどりの少年団を継続して活動できる体制が整っていない。

(2) 目的

令和4年度本県で開催される全国みどりの少年団活動発表大会参加に向けた活動の強化による県内少年団の活性化を図り、育樹祭後の少年団活動の推進に繋げる。

(3) 事業内容

- ・みどりの少年団が行う地域活動や指導者の育成等に支援
- ・大分県みどりの少年団活動発表大会の開催

3 成果

- ・地域活動等の支援
植樹活動に必要な資材購入などに対する支援を行い、活動強化を図った。
- ・活動発表大会
新型コロナウイルスの感染拡大の中、ビデオ形式の発表大会となったが、5団体が参加し、令和4年度の全国みどりの少年団活動発表大会の推薦団体を決定することができた。また、発表した地域ごとの特色ある少年団活動を記録紙とし、少年団や市町村等に配布することで少年団活動の活性化・相互研鑽による団員及び指導者の資質向上、活動の周知を図った。

4 今後の課題と取組

次代の森林・林業を支え担う人材の核として、みどりの少年団が行う活動をさらに活性化させる必要があり、令和4年度の全国みどりの少年団活動発表会に向け、引き続き活動支援を実施する。

5 実施状況写真

○実施内容
(工事現場での防災学習)



R3. 6. 3三郷小みどりの少年団

○実施内容
(各地の森づくり活動)



機械実演見学：
八坂かっぱクラブ緑の少年団

○実施内容
(サツマイモ栽培活動・獣害防止柵設置)



R3. 6. 5高瀬みどりの少年団

○大分県みどりの少年団活動発表大会状況

「高瀬森の応援団」
【協力】

- ・ サッポロビール九州日日工場
- ・ 高瀬生産森林組合

【目的】

自然とふれあうことで
自然の大切さに気付く体験活動

【活動】

平成16年 A=1.03ha
モミジ480本、ソメイヨシノ480本 を植樹
現在 下草刈り・枝打ち・間伐等の森林体験活動




R4. 1. 26高瀬みどりの少年団発表大会撮影

○大分県みどりの少年団活動発表大会状況

みわみどりの少年団で学んだこと

- 森や木の大切さを知った。
- 木には色々な種類があり、役割もたくさんある。
- 木や森が災害から守ってくれている。
- 植物が二酸化炭素を吸収するより、私たちの生活では、多くの二酸化炭素が出てきている。
- 植樹はとても大切で、数十年後の未来を守るために行っている。
- 上流に住んでいる私たちがごみを川に捨てたら、下流の人たちの生活が困る



R4. 1. 26みわみどりの少年団発表大会撮影

Ⅲ－７ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業 【高校教育課】

1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そんな中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施しており、大分県林業に貢献していく生徒を育成している。今後さらに、関連就職・進学を増やしていくことが求められる。

(2) 目的

県林業を牽引する担い手育成には、森林・林業管理の効率化・省力化が期待されるスマート林業の活用などにより、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域の林業における課題意識や解決に向けた意欲喚起を行っていく。併せて、小中学生における森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることにも取り組む。

(3) 事業内容

①外部講師招聘授業

目的：第45回全国育樹祭の取組の一環として、「木っと繋がるプロジェクト」オブジェ制作の取組に主として制作にあたる日田家具衆の活動を知ることにより、県内・市内および日本の森林林業を守る大切さについて学ぶ。

②事業所見学

目的：木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、正しい職業観を養成し、進路選択の一つの指針とする。

見学先：日本フォレスト株式会社 天瀬工場、新栄合板工業株式会社 玖珠工場

3 成果

林業関連就職・進学への関心が高まった生徒の割合（％）

R2年度 1年生2学期林業関連就職・進学希望者33.0％

→R3年度 2年生3学期林業関連就職・進学希望者83.4％

4 今後の課題と取組

外部講師招聘や企業見学、国内研修など、コロナ禍で調整が難しく実施できない事業があった。今後はアフターコロナを想定して事業を実施する。そして林業の必要性等を学び、林業関連就職・進学者の増加を図る。

5 実施状況写真

①外部講師招聘授業



②事業所見学



外部講師：仙崎雅彦・中村広樹

日本フォレスト株式会社天瀬工場

新栄合板工業株式会社玖珠工場

Ⅲ－８ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

(2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

(3) 事業内容

①第21回豊かな国の森づくり大会の開催

みどりの少年団8団体、一般参加者、大学生、その他関係者含め514名が参加し、豊後大野市大野町の全国植樹祭会場周辺において、森づくり活動及び学びの森林（もり）活動（森の教室、木のストラップづくり、花炭づくり、高性能林業機械実演見学、自然観察会）といった森林・林業体験活動を実施した。

- ・開催日時：令和3年11月13日（土）
- ・開催場所：豊後大野市大野町 全国植樹祭会場周辺
- ・主催：大分県、豊後大野市、（公財）森林ネットおおいた
- ・大会規模：参加者（みどりの少年団8団体、一般参加者、大学生、その他関係者）計514名
- ・活動内容：森づくり活動（樹種：イロハモミジ、ボタンザクラ、シラカシ、ヤマボウシ、カツラ、コブシ、コウヨウザン）大苗42本、小苗520本植栽。
：学びの森林（もり）活動（森の教室、木のストラップづくり、花炭づくり、高性能林業機械実演見学、自然観察会）



植樹状況



自然観察会の状況

②ワークショップ「体験型子ども科学館 O-Labo 出前講座」の開催

全国育樹祭への機運を高めるため、森林学習活動として、一般公募により小学生28名が参加し、体験型子ども科学館 O-Labo（大分市府内町）において、おおいた林業アカデミー指導員 佐藤朗氏を講師として講座を開催した。

- ・開催日時：令和3年8月1日（日）
- ・開催場所：体験型子ども科学館 O-Labo（大分市府内町）
- ・主催：第45回全国育樹祭大分県実行委員会
- ・大会規模：参加者（公募による小学生）計28名
- ・活動内容：講座「タネの分散を学ぼう」の受講、タネの模型の製作、分散体験



講座実施状況



タネの模型製作状況

③ワークショップ「森林 de 学ぼうクイズラリー」の開催

全国育樹祭への機運を高めるため、森林学習活動として、大分農業文化公園において、木や森林の仕組みなどを楽しみながら学べるクイズラリーを開催した。

- ・開催日時：令和3年7月15日（木）～10月28日（木）
- ・開催場所：大分農業文化公園内
- ・主催：第45回全国育樹祭大分県実行委員会
- ・大会規模：参加者 計1,018名
- ・活動内容：森林 de 学ぼうクイズラリー



クイズラリー実施状況



クイズラリー実施状況

④新たな森林づくり推進体制整備事業

・「森林づくり委員会」の開催

令和3年度は第4期大分県森林環境税の初年度であり、第3期までの取組、また第4期の方針を確認するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R3.6.29	・令和2年度森林環境税活用事業の実績 ・令和3年度森林環境税活用事業の予算概要
第2回	R3.10.21	・令和4年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R3.12.22	現地視察 ・大分芸術文化短期大学 音楽ホール・図書館 ・大成木材（株）プレカット施設 ・武道スポーツセンター

・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部・大分南部・大分西部・大分北部 (5流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の審査、実績の検証 ・意見交換等	書面決議

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催 (R3年度 1回開催)

森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、本県の50年後のあるべき森林の姿と、森林環境税を活用した災害に強い森林づくりや低コスト再造林の推進などの、次世代の大分森林づくりビジョンの取組状況についての報告と検証を行った。

3 成果

(1) 第45回全国育樹祭に向けた取組

第21回豊かな国の森づくり大会及び関連行事の開催

参加者数：1,560名

令和4年に本県で開催される全国育樹祭及び全国みどりの少年団活動発表大会に向けて、子ども達に森づくり活動を体験してもらうことで、森林の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

(2) 新たな森づくり推進体制整備事業

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、書面により各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、大分県の森林づくりにかかる課題・取組状況・成果を包括的に検証することができた。

4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、令和4年度に当県で開催される全国育樹祭を契機として、県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGs や脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

Ⅲ－９ おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

1 おおいたの森林づくり広報推進事業

(1) 実施主体 大分県

(2) 実施事業の概要

①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

②事業内容

マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 5回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 10回（県民の森、森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）
- ・ 「九州エコファミリー応援アプリ（エコふぁみ）」内お知らせへの掲載

【Facebook ページイメージ】



その他の広報活動

- ・ 大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布（各2500部）
- ・ 各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・ 大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。（R3もりりん貸出し回数：15回）
- ・ 「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・ 森の先生派遣事業チラシの作成



【森の先生チラシ】



【ガイドマップ】



【タペストリー】

【環境税チラシ・パンフレット】



【PR用ばんそうこう】



○PRの様子

【もりりん着ぐるみによるPR】



【農林水産祭でのPRブース】



(3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い（認知度は43%）。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。